



立教大学

立教セカンドステージ大学

学びの情熱尽きることなく

Rikkyo Second Stage College established in 2008



大学案内
2023

大学設立の趣旨と学長挨拶

About Rikkyo Second Stage College (RSSC)

立教セカンドステージ大学設立の趣旨

立教セカンドステージ大学（RSSC）は、50歳以上のシニアのために立教大学が2008年4月に創設した学びの「場」です。それは、人文的教養の修得を基礎とし、「学び直し」「再チャレンジ」「異世代共学」を目的としています。リベラル・アーツ（自由学芸）に体现される立教大学の建学の精神に基づき、高い評価を得ている学部学生のための全学共通科目や社会人大学院で培った先駆的な経験を駆使し、人生のセカンドステージにおいて、受講生が〈自由な市民〉としての生き方を自らデザインできるようにサポートする——これがユニークな生涯学習を目指す新しいキャンパス創造のコンセプトです。新たな学びにチャレンジする仲間としてここに集い、人と人とのネットワークを構築し、互いの多様性を認めて共生社会に参画することで、充実した人生を創造します。

RSSCは2023年に創立15周年を迎えます。歴代の多くの修了生は、同窓の仲間と一緒に社会貢献活動に、また、研究会や読書会などにも参加して、セカンドステージ・ライフを豊かに過ごしています。2023年度入学の第16期生をはじめとする受講生とともに、これまで築いてきた良き伝統と文化を引き継ぎ、オンライン化を含む「新しい生活様式」にも対応できるように、いっそうの創意工夫とイノベーションを図っていきます。

*立教セカンドステージ大学は、学校教育法第105条に基づく「大学等における履修証明制度」(2007年12月26日施行)により、『履修証明書』を交付します。

学長挨拶

立教セカンドステージ大学は、単なる生涯学習の場や文化講座プログラムではありません。そうではなく、「学び直し」と「再チャレンジ」の〈プラットフォーム〉として、私たちは位置づけています。体系的に設定したテーマに応じて、一年間、集中的に学びます。同期の仲間たちとゼミナールを作りあげ、修了論文の作成を目指します。このプロセスを通して、新たな人と人とのつながりが生まれ、当初は思い描いていかなかった新たな課題を発見することもあります。シニア世代の方々に、〈セカンドステージの生き方〉を自分自身でデザインし、修了後は、再び社会に参加し、貢献する多様な担い手として、その後の人生をいきいきと過ごしていただく。その契機を提供することが、設立以来の私たちの思いです。

学び直し、再チャレンジに加えて、もう一つ重要なキーワードがあります。それが、「異世代共学」です。立教セカンドステージ大学の学生と立教大学の学部生や外国人留学生が交流できる場が用意されていますが、その一つが、学部生対象の全学共通科目です。立教セカンドステージ大学の受講生も、一定の条件のもとに、全学共通科目を受講することができます。若い学生たちも、セカンドステージ大学のみなさんから、さまざまな刺激を受けています。

立教セカンドステージ大学での課題は、みなさんが蓄積されてきた知識と経験を、今一度ふりかえりつつ、また別の視点から見つめ直し、理解し直すことにあります。みなさんのこれまでの歩みを、自分という存在を越えたより大きな文脈の中に置いて再解釈することで、最終的には「私は何者なのか」という問いに対する解に取り組んでいただきます。

国立国会図書館の東京本館にある図書カウンター上部には、「真理がわれらを自由にする」という日本語とそのギリシャ語原文が刻まれています。それは、新約聖書ヨハネによる福音書第8章32節の言葉です。みなさんがこれから豊かで自由な人生を過ごしていただくために、立教セカンドステージ大学で「真理」に触れてください。半世紀を超える人生をあらためて言葉に置き直し、新たな可能性を築いてくださることを願います。



立教セカンドステージ大学

学長 西原 廉太
(立教大学総長)

講師陣

Faculty

ゼミナール修了論文および講義担当

阿部 治	立教大学名誉教授(環境教育、ESD)
上田 恵介	立教大学名誉教授／日本野鳥の会会長(動物行動学、鳥類学、生物多様性)
上田 信	立教大学文学部史学科世界史学専修教授(中国史、アジア社会論)
大野 久	立教大学名誉教授(生涯発達心理、青年心理学)
河村 賢治	立教セカンドステージ大学学長補佐／立教大学法学部法学科教授(商法)
栗田 和明	立教大学名誉教授(文化人類学、民族学、人文地理学)
黒木 龍三	立教大学名誉教授(現代経済学、金融理論、経済学史、観光経済学)
佐々木一也	立教大学名誉教授(哲学、倫理学)
高橋 輝暁*	立教大学名誉教授(ドイツ文学・哲学、日独比較対照文化学、教養論)
野田 研一	立教大学名誉教授(アメリカ文化、環境文学研究)
浜崎 桂子	立教セカンドステージ大学副学長、立教大学異文化コミュニケーション学部教授(ドイツの移民文化研究)
平賀 正子	立教大学名誉教授(言語学、英語学)
堀 耕治	元立教大学現代心理学部心理学科教授(実験心理学)
松山 伸一	元立教大学理学部生命理学科教授(生命科学)
渡辺 信二	立教大学名誉教授／山梨英和大学人間文化学部教授(アメリカ文学、日米比較、創作)

選択科目担当

秋野 晃司*	女子栄養大学名誉教授(生活学、文化人類学)
新井 美穂	日本キリスト教団伊勢原教会牧師(新約聖書学)
安藤 孝敏	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授(社会老年学、高齢者心理学)
生井 英考	元立教大学社会学部メディア社会学科教授(映像人類学、北米地域研究)
石黒 広昭	立教大学文学部教育学科教授(教育心理学・発達心理学)
井手口 彰典	立教大学社会学部メディア社会学科教授(音楽社会学)
大石 和男	立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科教授(健康心理学)
大和田 順子	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授(サステナブルコミュニティ、ソーシャル・イノベーション)
甲斐 徹郎	建築まちづくりプロデューサー／(株)チームネット代表取締役(環境・コミュニティデザイン)
河東田 博	元立教大学コミュニティ福祉学部教授(スウェーデン社会政策、障害者福祉)
加藤 睦	立教大学名誉教授(中古・中世和歌文学)
菊池 敏直	画家／前阿佐ヶ谷美術専門学校校長(表象文化)
小谷 みどり	シニア生活文化研究所所長(死生学、生活設計論、余暇論)
坂本 雅士	立教大学経済学部会計ファイナンス学科教授(租税法、税務会計論)
佐藤 壮広	山梨学院大学特任准教授(宗教人類学、表現文化論、沖縄研究)
杉浦 克己	立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科教授(ライフサイエンス)
竹中 千春	元立教大学法学部政治学科教授(国際政治)
月本 昭男	立教大学名誉教授／古代オリエント博物館館長(古代オリエント史、旧約聖書)
堂園 昇平	元同志社大学法学部教授(企業法務、金融法、信託法)
永石 文明	(株)エコロジーパス代表取締役／JWCS理事(生物多様性、保全生態学)
永沢 映	(特非)コミュニティビジネスサポートセンター代表理事／広域関東圏コミュニティビジネス推進協議会代表幹事(ソーシャルビジネス)
中村 秀之	元立教大学現代心理学部映像身体学科教授(映画研究)
野澤 正充	立教大学法学部法学科教授(民法)
野中 健一	立教大学文学部史学科超域文化学専修教授(文化環境学)
芳賀 和恵	早稲田大学理工学術院創造理工学部准教授(経済学、アントレプレナーシップ、イノベーション)
橋本 晃	立教大学社会学部メディア社会学科教授(ジャーナリズムスタディーズ)
鉢村 健	令和総合研究所(株)代表取締役／凸版印刷顧問／元日本銀行神戸支店長(金融論)
服部 孝章	立教大学名誉教授(メディア法、情報社会論)
浜田 忠久	NP0 法人市民コンピュータコミュニケーション研究会(JCAFE)代表(数学、情報ネットワーク社会論)
黄 盛彬	立教大学社会学部メディア社会学科教授(メディア研究、文化研究)
堀 エリカ	(株)医療コーディネータージャパン代表(臨床看護学・医学、ヘルスリテラシー、死生学)
松田 智生	三菱総合研究所未来共創本部主席研究員(地域活性化、アクティブシニア論)
松本 秀士	立教大学兼任講師(東洋思想)
三浦 元	元日本放送協会(NHK)広報局長・福岡放送局長(メディア社会論)
箕口 雅博	立教大学名誉教授(臨床・コミュニティ心理学、アドラー心理学)
宮部 寛志	立教大学理学部化学学科教授(分析化学)
村上 祐子	立教大学文学部・大学院人工知能科学研究科教授(哲学・倫理、人工知能の哲学)
森 卓也	三菱総合研究所主席研究員(ヘルスケア、ウエルネス)
森平 崇文	立教大学外国語教育研究センター教授(中国メディア、上海史)
山縣 宏之	立教大学経済学部経済学科教授(経済政策)
渡辺 豊博	元都留文科大学教授(市民活動論、富士山学)

* 教員は、その所属と肩書を含めて、2022 年度の陣容で、年度によって一部変更になることがあります。なお、「オムニバス講義」のみに登壇する講師や選択科目のゲストスピーカーは省略してあります。

※ 2023 年 3 月退職予定

立教セカンドステージ大学 6 つの特徴

Special Features of the College

1 伝統と活力に満ちたキャンパス

利便性と快適性に恵まれた立教大学池袋キャンパスは、都心にありながら美しく、アカデミックで落ち着いた雰囲気があります。若い学生たちが闊歩するキャンパスで、「シニアの新鮮な大学生活」を送ることができます。受講生専用のラウンジが用意されており、さらに、全国有数の図書館、パソコン教室等の教育施設や食堂、室内温水プール等の施設もあります。



2 魅力のある科目展開と異世代共学

シニア層がすすんで「学びたい」と思える魅力ある科目を開講します。〈自由な市民〉を支える教養や基本的な技能を学び直すことができ、いままで看過してきた事象に着目する授業やシニア層ならではの関心に応える科目群も展開しています。学部学生と一緒に全学共通科目を受講したり、学部学生の授業にコメンテーターとして参加したりするなど、若い世代との異世代共学の機会もあります。



3 すべての受講生がゼミナールに参加

教員と受講生とが協同し、ともに授業やゼミナールを創っていくという視点を大切にします。そのため、すべての受講生がゼミナールに所属し、担当教員の指導を受けながら、修了論文を作成します。参加者の自主性を重視するゼミナールは、活発な討論を通じて、受講生同士の親交を深め、コミュニティでの多様性を尊重する新たな生き方を語りあう貴重な場となります。



担当教員の声



浜崎 桂子

立教セカンドステージ大学副学長
立教大学異文化コミュニケーション学部教授
(ドイツの移民文化研究)

本学の大きな特徴は、全員がゼミナールに参加して学ぶという点にあります。一つのテーマに主体的に取り組む、教員や仲間と議論しながら修了論文を書き上げる過程は「大学」ならではの学びだといえます。この経験をもとに、社会貢献、研究会などの活動を継続している修了生も少なくありません。魅力あふれる講師陣と議論する仲間に出会える場であるセカンドステージ大学は、意欲あるみなさんの入学をお待ちしています。



上田 恵介

立教大学名誉教授／日本野鳥の会会長
(動物行動学、鳥類学、生物多様性)

立教セカンドステージ大学は2023年4月で15周年を迎えます。すでに1000人を超える修了生が社会に出て行きました。人生100年時代。RSSCの修了生は家庭や地域、NPOと、社会のあちこちで元気に活躍しています。大切なことは、たとえ歳をとっても、身体と頭の動く限り、社会の一員として、目標を持ち、誇りを持って生きていくことではないでしょうか。元気なシニアのみなさまの入学を心よりお待ちしております。

4 多彩なフィールドスタディ

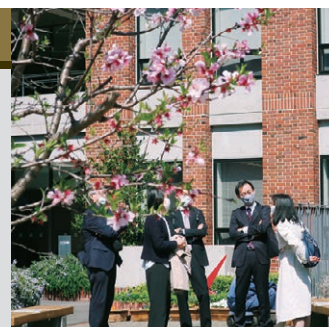
現実の地域を舞台に、どのようにして、人と人、人と自然を結び、新たなコミュニティを創造していくかを学びます。積極的に野外に出て自然の大切さ、生き物のいとおしさを学ぶ授業や、実際の社会活動がおこなわれている「現場」に足を運ぶ授業もあります。夏休みには、全ゼミナールの合同合宿*を行い、グループ活動やキャンプファイヤーなどを楽しめます。

*新型コロナ禍の状況により変更になる場合があります。



5 修業年限は1年、専攻科進学も可能

本科の修業年限は1年です。各科目は春学期あるいは秋学期の半年で完結し、夏期集中講義も実施しています。必修科目・選択科目・ゼミナールなどの体系的プログラムを通じて、所定の単位を修得すると、修了証書が授与され、併せて、学校教育法105条に基づき、文部科学省が定める「履修証明書」が交付されます。さらに勉学を続けたい受講生のために、もう1年学べる専攻科が用意されています。



6 正課外活動と修了後の継続

立教セカンドステージ大学は正課外の学習機会（講演会、体験型イベントなど）も提供しています。受講生が積極的に関わる委員会活動の機会（修了論文発表会、オンライン活動、広報など）もあります。これらの正課外の活動に参加する中でRSSCの受講生同士のネットワークが形成され、修了後の同窓会や社会貢献活動サポートセンターの研究会活動として、活発に継続していきます。



平賀 正子

立教大学名誉教授(言語学、英語学)

立教セカンドステージ大学の特徴は、授業とゼミナール、そして課外活動です。充実したカリキュラムはもとより、大学図書館が活用できることもメリットです。キャンパスライフの核をなすゼミナールでは、「修了論文」を目指して担当教員から指導を受け、研究発表や討議によって切磋琢磨することになります。また受講生および修了生が共に活動する様々なサークルがあり、社会貢献とネットワーキング作りの絶好な場を提供しています。輝くシニアライフをエンジョイしてください。



河村 賢治

立教セカンドステージ大学学長補佐／
立教大学法学部法学科教授(商法)

私が担当する「SDGs×AI×経済×法」という全学共通科目では、RSSC受講生と学部学生がグループワークをする機会を設けています。例えば、SDGsに関連する地域課題を解決する取り組みなどについて話し合ってもらいます。RSSC受講生からは「若い世代との意見交換は多くの発見があり刺激的だった」、学部学生からは「経験豊富なシニアの方の意見はとても参考になった」などの感想が多く寄せられています。

皆さんもRSSCで異世代共学を楽しんでみませんか。

カリキュラムの構成

Curriculum Outline

カリキュラムは、多様な社会参加の主体として自ら考える〈自由な市民〉のためにという視点で、「エイジング社会の教養科目群」「コミュニティデザインとビジネス科目群」「セカンドステージ設計科目群」の3群からなる選択科目のほかに、必修科目の「オムニバス講義」「ゼミナール・修了論文」をもって編成されています。また、立教大学の全学部学生を対象に開講される全学共通科目を一定の条件で履修することができます。

すべての科目にそれぞれ一定の単位数が定められており、本科を修了するには、1年間在学して、必修科目を2科目6単位（オムニバス講義1科目、ゼミナール・修了論文1科目）、選択科目を6科目12単位以上、合計18単位以上を修得することが必要です。本科修了後に進学できる専攻科では、必修科目を2科目10単位（オムニバス講義1科目、ゼミナール・修了論文1科目）、選択科目2科目4単位以上、合計14単位以上の修得をもって修了できます。なお、受講生の過重な学習負担を回避するために、春（夏期集中講義を含む）と秋の各学期でそれぞれ履修できる科目数は、必修科目も含めて10科目（20単位）を上限としています。

また、オンラインのコミュニケーションが加速する社会にも対応できる〈自由な市民〉を目指して、一部の科目をオンラインで実施します。2023年度も、新型コロナウイルス感染のリスク回避を最優先に、必要に応じて、授業の全面的オンライン化や学習施設の利用制限が行われる場合があります。ゼミ合同合宿、その他の学習イベントもオンライン活用プログラム等に変更される場合があるかもしれません。

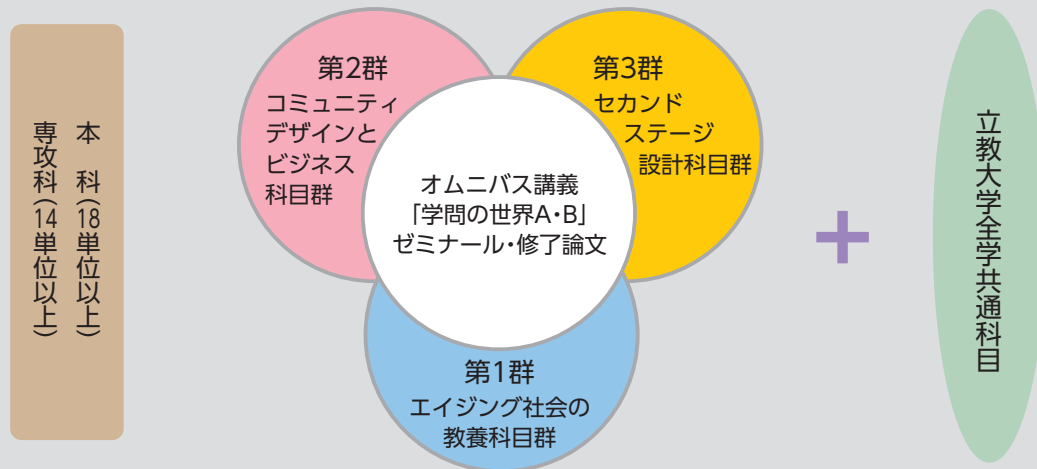
カリキュラム内容と開講科目

Curriculum & Courses

1 選択科目については、下記の3つの科目群から自由に選択できます。

	エイジング社会の教養科目群
第1群	人生のセカンドステージでは、立教大学が伝統的に重視するリベラル・アーツ（自由学芸）に触れることが不可欠です。それによって既成の先入観や価値観から自由になって、自己自身や社会、世界をこれまでとは異なる視点から見直すことができます。古今東西の知的遺産に学び、〈自由な市民〉としてこれからの時間を豊かに過ごすための教養を身につけることによって、セカンドステージに相応しい自己を形成します。
	コミュニティデザインとビジネス科目群
第2群	21世紀の新しい公共性を担うとされるNPO/NGO活動、また、ソーシャル・ビジネス/コミュニティ・ビジネス、ボランティア活動等について、立教大学が培ってきたさまざまなヒューマン・リソースとネットワークを活用した実践的講義を展開します。立教セカンドステージ大学に付置された社会貢献サポートセンターと連携して、シニア世代の生きがい創造と社会貢献への船出を支援します。
	セカンドステージ設計科目群
第3群	セカンドステージは「第二の人生」にほかならず、自分の将来を見据えた人生設計は、生き生きと生活するシニアを支える力になります。健康で豊かな、知的好奇心にあふれたセカンドステージの新しい可能性を開くために、高齢化社会におけるシニアの位置づけと役割、シニアと社会共生、さらには死生観を含めた人生について考え、それを実践するためのヒントを提供します。

カリキュラム構成の概念図



2 必修科目は以下の 2 つです。

オムニバス講義「学問の世界 A・B」

ゼミナール担当教員を中心に輪番で、それぞれ専門とする学問をその営みの意義と関連づけて語ります。そこには、知性と教養に裏打ちされたセカンドステージをデザインしてゆく上でのヒントがあるはずです。加えてゲスト講師の特別講義も折り込まれます。本講義は、修了論文作成のための示唆に富む知的交流の場でもあり、各ゼミの枠を超えて、同期生全員が一緒に同じ科目を体験する貴重な機会ともなります。

ゼミナール・修了論文

ゼミナールの活動は、これまでの人生経験を含めて各受講生の知的な潜在能力を引き出すための共同作業です。本科も専攻科ともに受講生はいずれかのゼミナールに所属し、修了論文の完成を目指します。そこでは、セカンドステージ・ライフを見据えて各自が関心のあるテーマについて調査研究を重ね、その成果の発表と討論を経て、意見の違う人が納得できるように論じます。年度末の 3 月には全ゼミナール合同で修了論文発表会も開催されています。

*ゼミナール担当教員は選べません。

開講期間は春学期、夏期集中講義、秋学期の 3 期に分けられます。

講義期間は春学期、夏期集中講義、秋学期の 3 期に分けられます。ゼミナール・修了論文は入学時にクラスが指定され、春学期と秋学期を通して受講します。夏期集中講義は 8 月～9 月中旬に 1 科目 3 日間の連続で 10:00～17:00 に開講される選択科目です。8 月下旬～9 月上旬には、ゼミ合同合宿が開催され、特別講演や自然観察会などのイベントを通じて、各ゼミの枠を超えた人間関係やネットワークづくりの機会となります。また、秋学期の授業期間終了後には各種の学びの体験型イベントも、開催されています。

*新型コロナ禍の状況により変更になる場合があります。

開講科目とスケジュール

Courses and Schedules

以下は、2022 年度のカリキュラムです。立教セカンドステージ大学の科目は月～金曜日の 4 時限、5 時限に開講し、1 回の授業は 90 分です。各学期にオンライン曜日を設けて、1 時限目（8:50 開始）から 5 時限目（18:40 終了）までの各時限の科目をオンラインで開講しています。なお、本科ゼミナールは、主として木曜日 5 時限の開講ですが、クラスにより曜日・時限が異なることがあります。開講時間帯が重なる科目の同時履修はできません。なお、新型コロナ禍の状況によっては、全面的にオンライン授業になる可能性もあります。

春学期

A. 対面授業（履修人数制限あり）月・火・水・木曜日 4時限（15:20～16:50）5時限（17:10～18:40）

時限	4時限		5時限	
曜日	科 目 名	担当者	科 目 名	担当者
月	障害者とインクルージョン	河東田 博	食と健康の教養学	松山 伸一
火	世界の激動を読む	橋本 晃	NPO 法人の理論と事例研究	森 卓也
水	アドラー心理学を実践に活かす	箕口 雅博	ジャーナリズムと法 B	服部 孝章
木	オムニバス講義「学問の世界 A」	ゼミ担当教員他	本学ゼミナール・修了論文	ゼミナール 担当教員
	オムニバス講義「学問の世界 B」	ゼミ担当教員他 & 理学部教員		
金	[B. オンライン授業 金曜日] を参照			

B. オンライン授業

金曜日 1時限（8:50～10:20）2時限（10:45～12:15）3時限（13:25～14:55）
4時限（15:20～16:50）5時限（17:10～18:40）

時限	科目名	担当者	科目名	担当者
1	現代中国のメディア	森平 崇文	セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子
2	壮年期・老年期の生涯発達心理学	大野 久	Sociology of News/Journalism	黄 盛彬
3	古典和歌を読む B	加藤 睦	最後まで自分らしく	小谷みどり
4	古典として読む旧約聖書	月本 昭男	社会老年学	安藤 孝敏
5	現代化学の成果と社会生活	宮部 寛志		

C. 全学共通コラボレーション科目

水曜日 2時限（10:45～12:25）100分授業

科目名	担当者	備考
SDGs×AI×経済×法	河村 賢治 阿部 治	1) 学部学生と履修する異世代共学の立教大学全学共通科目 2) 全学共通科目の例外で、RSSC 受講生の履修人数制限なし

秋学期

A. 対面授業（履修人数制限あり）月・火・木・金曜日 4時限（15:20～16:50）5時限（17:10～18:40）

時限	4時限		5時限	
曜日	科 目 名	担当者	科 目 名	担当者
月	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	堂園 昇平		
火	グローバル社会とメディアの使命	三浦 元	国際政治とグローバル市民社会の構想	竹中 千春
水	[B. オンライン授業 水曜日] を参照			
木	現在（いま）を生きるための健康学	堀 エリカ	本科ゼミナール・修了論文	ゼミナール担当教員
			専攻科ゼミナール・修了論文	
金	修了生が語るアクティブシニアの生き方	栗田 和明	東洋思想からの問い	松本 秀士

B. オンライン授業

水曜日 1時限（8:50～10:20）2時限（10:45～12:15）3時限（13:25～14:55）
4時限（15:20～16:50）5時限（17:10～18:40）

時限	科目名	担当者	科目名	担当者
1	現代美術に親しむ	菊池 敏直	SDGsとビジネスロー	河村 賢治
2	「C. 秋学期集中講義」の「備考」欄を参照		日本と世界の経済政策	山縣 宏之
3	聖書と私	新井 美穂	現代社会と民法	野澤 正充
4	セカンドステージの市民生活とNPO 活動	渡辺 豊博	金融論	鉢村 健
5	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	会計・税務の初歩から実践まで	坂本 雅士

C. 秋学期集中講義（対面授業（履修人数制限あり）

秋季臨時休業期間11/2～4（水・木・金）10:00～17:00

科目名	担当者	備考
環境保全とコミュニティ形成	永石 文明	新型コロナ禍の状況により、秋学期水曜日 2 時限にオンライン（履修人数制限なし）で実施

D. 全学共通科目立教ゼミナール発展編

火曜日 5時限（17:10～18:50）100分授業

科目名	担当者	備考
異世代間対話 —現代文明生活の諸問題—	佐々木一也	1) 学部学生と履修する異世代共学の立教大学全学共通科目ゼミナール 2) 全学共通科目の例外で、RSSC 受講生 10 名まで履修可能

夏期集中講義

A. 8/1～29 対面授業

平日3日連続（白枠に記載の日程）開講時間10:00～17:00

科目名	担当者	8月の開講日程
人間学としての経済思想	芳賀 和恵	8/1,2,3 月・火・水
ポジティブ心理学による生きがいの創造	大石 和男	8/10 ～19
アートに基づいた学習活動のデザイン	石黒 広昭	8/4,5,8 木・金・月
健康長寿とアンチエイジング	杉浦 克己	8/22,23,24 月・火・水
原風景とジオラマで自分史をつくる	野中 健一	8/25,26,29 木・金・月
童謡を通して社会を視る	井手口彰典	
サステナブルコミュニティの思想と実践	大和田順子	
セカンドステージの住まいづくり	甲斐 徹郎	

B. 8/30～9/9 対面授業

平日3日連続（白枠に記載の日程）開講時間10:00～17:00

科目名	担当者	9月の開講日程
自由な市民のための映画学入門	中村 秀之	8/30,31,9/1 火・水・木
持続可能な社会と地域づくり	阿部 治	9/2,5,6 金・月・火
歌が照らす人と社会	佐藤 壮広	9/7,8,9 水・木・金
コミュニティの課題発見とメディア表現	浜田 忠久	
ソーシャルビジネスの理論と実務	永沢 映	
セカンドステージの食文化	秋野 晃司	

C. 8/1～8/4 全学共通科目【多彩な科目】

4. 心身への着目 対面授業 4日連続 開講時間8:50～17:00（1日100分授業×4）

科目名	担当者	備考
いのちを健康で彩る知恵 (Health Humanities への招待)	菊田 文夫 石渡 貴之	1) 立教大学と聖路加国際大学の合同開講科目 2) 立教大学池袋キャンパス（2 日）と聖路加国際大学（2 日）で開講 3) 全学共通科目の例外で、RSSC 受講生 10 名まで履修可能

立教大学全学共通科目の受講について

General Curriculum

立教セカンドステージ大学の受講生は、立教大学学部学生のための全学共通科目から講義系科目の受講を一定の条件の下に認められます。多彩な科目が多数用意されており、異世代の若い学生とともに学ぶことで、未来を担う世代を理解する機会にもなる「異世代共学」の現場です。

たとえば次の全学共通科目が履修されています。全学共通科目の科目概要は立教大学のホームページに掲載されています。なお、毎年、若干の変更があります。

朝鮮語圏の文学、情報科学B、イスラームの世界、歴史への扉、地域研究への扉、哲学への扉、近代日本社会と人権、表象文化、ドイツ語圏の文化、台湾から世界を考える、生命の科学、大学と科学技術、ストレスマネジメント、国際情勢を読み解く、多文化の世界、ボランティア論、癒しの科学、スペイン語圏の文化、生命の歩み、「宗教」とは何か、現代社会における言葉の持つ意味、化学と社会、教育学への扉、健康の科学、日本文化と精神性、SDGs × AI × 経済 × 法、グローバル社会における法と政治、日本国憲法、世界経済と日本、いのちを健康で彩る智慧（Health Humanities への招待）

* 一部に受講できない科目があります。またRSSCの全学共通コラボレーション科目を除いて、1科目4名以上の受講希望者があるときは、抽選になります。

異世代共学

Intergenerational Learning

50歳から80代の幅広い年代が共に学ぶ立教セカンドステージ大学そのものが異世代共学の間です。また、学部生との異世代共学としては、全学共通科目履修のほかにも、異文化コミュニケーション学部の学生発表を聴いて、異世代の立場からコメントする役割を担ったり、経営学研究科の留学生が実践的なビジネス日本語会話を学べるよう、上司、同僚、取引先役としてロールプレイに参加したりする機会が設けられています。異なる世代の考え方や行動を理解し、活力を身近に感じて自らを活性化するとともに、国際交流の一翼を担っています。



正課外の活動

Activities of Students

1 受講生の正課外活動も活発です

正課外の活動においても、お互いに啓発、懇親できる機会があります。受講生が主体になって「ゼミ世話役会」「ニューズレター編集委員会」「オンライン活動委員会」などを運営すると同時に、各種の懇親関連行事を企画し、自主性をもって活動しています。また、春休みには、教員が担当する複数の体験型イベント*があり、立教大学周辺施設見学、自然観察、授業関連の特別講演などが実施されます。

*新型コロナウイルスの状況により変更になる場合があります。

2 社会貢献活動サポートセンターとその登録研究会

受講生および修了生が「学び直し」「再チャレンジ」と「異世代共学」を基礎に、社会との交流や社会に役立つ貢献を推進するための「社会貢献活動サポートセンター」が設置されています。ここでは研究・演習・実践の「場」として組織されたグループが登録され、それぞれの登録研究会のメンバーが自主的に運営し、センターを担当する教員と顧問がその活動をサポートしています。登録研究会は2022年度で12グループを数え、のべ約400名がその活動に携わっています。



修了生の活動

Activities of Alumni

立教セカンドステージ大学で学んだ修了生は〈自由な市民〉としてさまざまな活動に参加しています。受講生仲間と読書会や勉強会の活動が続ける、RSSCの本科から専攻科に進む、聴講生制度を利用する、大学院に進学する、あるいは再就職や起業に挑戦、地域やコミュニティでのボランティアやNPO活動に参加するなど多彩です。とりわけ社会貢献活動で活躍することへの関心も高まっています。

修了生による同窓会も組織されています。会員は、全体行事や同期生ごとの集いのほか、各種研究会やサークルを通じて活発に交流し、その様子を同窓会のホームページでも報告しています。RSSCでの修学は一過性のものではありません。修了生は、在学時のさまざまな絆を維持し、相互に新たなネットワークを築きながら、学びや社会活動の機会を自ら創造し、活用しているのが大きな特徴です。



立教セカンドステージ大学同窓会ホームページ
<https://rssc-dsk.net/>

オンライン化する社会へ向けての取り組み

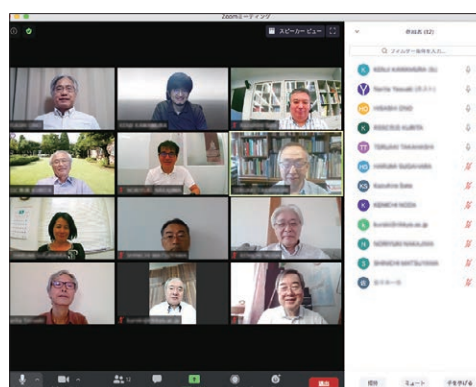
Toward a Society Online

立教セカンドステージ大学では、2020年度より、オンライン授業を一部の科目に取り入れしました。これにより、受講生の皆さんは、自宅のPCからRSSCの授業を受講し、教員に質問したり、他の受講生と議論したりすることなどができるようになりました。また、授業外においても、受講生の皆さんがオンラインで任意に集い、話をする事ができる場として、オンライン談話室を設置しています。

新型コロナ禍は、人々のリアルな行動に大きな制約をもたらす一方で、テレワークの進展に顕著にみられるように、オンラインによるコミュニケーションを加速させました。ウィズコロナないしアフターコロナの社会においては、こうしたオンラインコミュニケーションの活用が常態化し、私たちの生活と切り離せないものになると考えられます。オンラインコミュニケーションを可能にするテクノロジーは、物理的空間を越えて人々を結び付ける強力な手段となったのです。しかし、良いことばかりではありません。近年では、オンライン上の誹謗中傷が人を追い詰め、命をも奪う悲劇を私たちは目の当たりにしました。良識を欠いたテクノロジーの利用は、人間社会にとって害をもたらすものともなりうるのです。

RSSCは、オンラインコミュニケーションに関する技能や教養を新たな時代のリベラル・アーツの一環としてとらえ、実際にオンラインでコミュニケーションをとりながら、そのあり方について受講生の皆さんと共に考えようと思います。こうした学びの中で皆さんが得た知識や経験は、〈自由な市民〉としての生き方を自らデザインしていく上で、貴重な財産になるはずです。

オンライン授業の受講やオンライン談話室の利用にあたっては、PCなどの準備が必要になります。RSSCで学ぶことを検討している皆さんの中には、PCに不慣れな方もおられると思いますが、RSSCとしては、誰一人取り残すことなく、サポートしていきたいと考えています。



Zoomミーティングの画面イメージ

カメラ・マイク付PCがあれば、Zoomアプリによりオンラインの教室や談話室に入室する手順は、とても簡単です。

1. ミーティングのホスト（たとえば教員）からの招待メールに記載のURL（インターネットのアドレス）をクリックする。
2. 通常使用のブラウザを介して、Zoomミーティングルームへ入室する画面が、自動的に開くので、画面の指示に従う。

年間行事と受講生の感想

Campus Calendar & Impressions of Students

キャンパスカレンダー

4

April

- ・入学式
- ・履修ガイダンス
- ・春学期履修登録
- ・春学期授業開始
- ・オンラインウェルカムパーティ

5

May

- ・情報検索講習会

6

June

7

July

- ・春学期授業終了
- ・春学期末試験(全学共通科目)

8

August

- ・夏季休業
- ・夏期集中講義

9

September

- ・ゼミ合同合宿
- ・夏期集中講義
- ・秋学期履修登録
- ・秋学期授業開始

10

October

- ・ホームカミングデー

11

November

- ・秋季臨時休業
- ・入試説明会

12

December

- ・入試説明会
- ・クリスマスパーティ
- ・冬季休業

1

January

- ・修了論文提出
- ・秋学期授業終了
- ・秋学期末試験(全学共通科目)

2

February

- ・修了者発表
- ・次年度本科入学試験
- ・課外活動

3

March

- ・課外活動
- ・修了論文発表会
- ・修了式
- ・修了パーティ

2023年度も、必要に応じて、オンラインを活用したり、他のプログラムで代替するなど、感染リスクの回避を最優先に対処します。

受講生の感想



登澤 勝

2022年度
本科生

RSSC で学ぶ

数年前から、社会人・シニアのコースが充実している立教大学で学びたい強い想いをもち、入学しジャーナリズムや心理学、死生学を学んでいます。刺激ある教授陣や新たな仲間と語らう時間、目の前に広がるキャンパス風景に40年前の自分の姿が存在しています。共に学ぶ仲間とは比較することなく、RSSCでの学びを完結させ、以前から少し関わってきた地域防災や福祉活動への新たなチャレンジの契機にしたいと考えています。



花岡 則子

2022年度
本科生

「セカンド」では終わらない

教壇に集中する眼差し。シニアは学びのエキスパートである。それに応え、先生方の講義も熱い。いや、教授陣の熱量にこちらが取り込まれているのかと、授業のつど実感する。

単なる受け身の講座ではない授業を提供している場合と、この大学を選択した。受講科目は今まで勉強したことのないものにも挑戦。目から鱗の授業内容に、新しい視点を知り、考える。学ぶことは刺激的で本当に楽しいと改めて思う。そして続いていくのだ、と。



戸張 君代

2022年度
専攻科生

未知なる自分への旅

未知の自分と出会う旅。RSSCでの学びの2年間は私にはそう感じます。社会人として30年以上過ごしてきた場所はこの世界のほんの一部であること。そして自分には未だ知らないことがたくさんあるということに多彩な授業と友人との出会いで気づきました。授業では自分の語彙を駆使して、レポート・発表・ディスカッションに取り組みます。ここでの学びは優劣の彼方にあるものです。学ぶことでものごとの見かたが変わり、考えが深まります。それは、ほんの少し成長した自分との出会いだと私は思うのです。



中田 克己

2022年度
専攻科生

より深く、より広く

RSSCで学んでいる人には二つのタイプがあるように思います。一つは、今までの人生で培ってきたものをより深く研究、検証していこうとするタイプ。もう一つは、今までの人生ではあまり触れることのなかった新しい学問領域に挑戦していこうとするタイプです。私の場合はほとんど未知の世界であった哲学と宗教関連を研究テーマにしています。難解な部分もありますが先生方の懇切丁寧なご指導をいただき、学問する喜びを感じる毎日を過ごしています。

2023 年度 本科受講生募集の概要

Application Procedures & 2023 Admission

出 願 資 格	2023年の4月1日現在、満50歳以上で、高等学校を卒業、またはこれに準じた学力があると認められる方
募 集 人 員	本科:100名 【参考】専攻科:50名(本科修了者を対象に募集)
募 集 期 間	2022年12月5日(月)～2023年1月16日(月)
面接試験日	2023年2月16日(木)、17日(金) (いずれか1日を大学側から指定します)
選 考 料	10,000円
選 考 方 法	書類選考(履歴書・課題エッセイ)および面接試験
合 格 発 表	2023年2月20日(月)
登録料・受講料	登録料 100,000円 受講料 330,000円(予定)
そ の 他	立教セカンドステージ大学は、文部科学省認可の大学ではありませんので、学割・通学定期券の利用はできません



2023年度の募集要項は、ホームページからダウンロードしていただくか、下記事務室にご請求下さい。

入学試験のポイント

入学試験として、課題エッセイの事前提出と面接試験が課されます。そのポイントは次の通りです。

- ①課題エッセイと面接試験を総合して可否を判定します。筆記試験は行いません。
- ②課題エッセイは「志願理由」をテーマに、今までどのような人生を送ってきたか、家族とのかかわり、地域との交流のほか、自分の特技・趣味、そして、当大学で学んだことをどのように生かしたいか等を、2,500 字程度で自由に記載して応募時に提出いただきます。
- ③面接試験は、全応募者に対して 1 人 15 分程度の質疑応答を行います。主なポイントは、立教セカンドステージ大学に出願された動機、入学後どのようなことを学びたいか、また、学んだことを修了後にどのように生かしたいか等、意欲のあるところを述べていただきます。

新型コロナ禍の状況によっては、来校しての面接試験ではなく、オンライン面接を実施します。そのときは、インターネットに接続したカメラ・マイク付PCまたはスマートフォンを使用して動画で対話できる環境の整備を志願者をお願いします。なお、入学後は、修了論文の執筆、オンラインによる受講や課外活動のために、カメラ・マイク付 PC でのインターネット接続が必須になります。

立教セカンドステージ大学

●所在地／〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1

詳しい情報は HP をご覧下さい。

立教セカンドステージ大学 検索

開講科目、教授陣、授業の内容やゼミナールの特徴、課外活動の様子などが掲載されています。

スマートフォンからもご覧いただけます。



- JR 山手線・埼京線・湘南新宿ライン、東武東上線、西武池袋線、東京メトロ丸ノ内線・有楽町線・副都心線「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「要町駅」6番出口より大学正門まで徒歩約6分

お問合せ

立教セカンドステージ大学事務室

Tel: 03-3985-4672

Fax: 03-3985-4703

E-mail: rssc@rikkyo.ac.jp